

会議結果のお知らせ

1 開催した会議の名称

令和8年度第2回岩手県公共事業評価専門委員会

2 開催した日時

令和8年7月14日（火） 13:30～15:35

3 開催場所

エスポワールいわて 3階 特別ホール（盛岡市中央通1丁目1-38）

4 出席委員

武藤由子専門委員長、伊藤幸男副専門委員長、阿部伸史委員、松林由里子委員
（6名中4名出席）

5 議題等

（1）議事

ア 公共事業の再評価について＜継続審議＞

詳細審議地区5地区について、事業担当課から資料No.2により説明があり、審議が行われた。

■ 専門委員からの主な質疑、意見は次のとおり

【農村地域防災減災事業 樋茂井（奥州市）】

（質疑）

工事中の用水の利用状況はどのようなになっているのか。

（回答）

地元から、4月から9月までは用水を流す必要があるとの要望があるため、施工期間は10月から翌年3月までとしている。そのため、営農を継続しながら工事を進めている。

（質疑）

水源の水を止めるような水門などにより、上流側で用水の流れを管理することはできるのか。

（回答）

工事の始点側には大きな柵を設置して閉め切るようにしているため、用水そのものは始点側で止めることができる。しかし、山に降った雨水が水路に次々に入り、農業用水も一緒に流れるため、コントロールすることが難しい。その結果、水路から水があふれ、農地や民家への被害が発生する場合がある。

（質疑）

そうした状況は、あらかじめ計算した上で事業を進めており、安全を確保できるということか。

（回答）

そのとおり。事業計画時点から山からの流入水を想定しており、深さ1m程度の比較的大きな断面を持つ水路として整備を行っている。

（質疑）

事業全体を考えると、事前に詳細な調査を行った方が良いのではないか。施工を進めながら対応する場合、結果として事業費が増加となる場合がある。トータルの事業費を縮減できるよう、調査の在り方について今後ご検討いただきたい。

（回答）

今後、丁寧な調査を行った上で事業計画の策定に取り組んでまいりたい。

【林道整備事業 翁沢線（西和賀町）】

（質疑）

年度をまたいだ契約が可能になると、入札などの手続きに要する時間を短縮できるということか。

（回答）

契約手続きの時間短縮ではない。例えば、令和9年度の工事について、令和8年度の2月定例会で議案を提出し、令和8年度末に契約する流れとなる。これにより、令和9年度になって業者が速やかに現場に入ることが可能となる。

（質疑）

5月下旬からしか工事ができないと伺ったが、それでも前年度末に契約が済んでいると迅速な工事の開始につながるのか。

（回答）

契約後には、施工計画書の作成、起工測量などがあり、現場に入るまでに1か月以上準備がかかる。年度末までに契約した場合、施工計画書などを予め準備することができるため、工事着手時期が変わってくると考えている。

（質疑）

令和13年の事業完了とすると1年あたりの進捗は約400～500mと思われるが、予算を確保できる見通しもあるということか。

（回答）

翁沢線として予算を受ける受皿を広げることや、複数工区体制とすることをやっていく。岩手県ではかなりの路線数を施工しており、きめ細やかな事業進捗管理を行うことで、例えば、他事業の執行残を活用するだけでも相当な金額となる。また、国で経済対策の補正予算が編成された場合は、複数工区体制としておくと活用しやすくなる。このように、様々な可能な手段を使って進捗を高めていきたいと考えている。

【漁港整備事業 重茂漁港（宮古市）】

（質疑）

本事業のように、漁港内に漁場整備を行うのは一般的なのか。

（回答）

県内で、防波堤に囲まれた漁港の泊地内で整備している事例は本地区だけである。その他は、外洋に面した場所での整備がほとんどである。

（質疑）

漁場整備したところは、船の航行に支障はないのか。また、漁港内のため静穏な状況とは思いますがブロックが移動する心配はないのか。

（回答）

支障となるものではない。ブロックは10m間隔で設置しており、ブロック天端の水深は－2m程度となっている。海藻があるとスクリューに絡まる心配はあるが、通常の航行はないため、特に問題はないと考えている。

（質疑）

漁場を整備する前は、この場所でアワビ・ウニ漁は行われていたのか。

（回答）

ブロックを置くことにより、日が当たる深さまで高さを上げているため藻場が造成されたが、今までは水深が深かったため、漁場としては活用されていなかった。

【総合流域防災事業（河川） 二級河川宇部川水系明内川 野田（野田村）】

（質疑）

今後、放水路を整備し明内川から泉沢川に水を流していくとのことだが、泉沢川の方が流量が多い中で、流量の少ない方から多い方に流しても流れていくものなのか。

(回答)

泉沢川の流量断面、両河川の位置関係や高低差等について、確認した結果を踏まえ、明内川であふれてしまう水を泉沢川に流す事業計画としている。

(質疑)

事業期間が長期にわたっており、東日本大震災を経て野田村市街地の土地利用状況が変化していると思うが、そのあたりの影響はあるか。

(回答)

震災復旧・復興のまちづくりと調整を行った上で分水路の整備を進めており、復旧・復興に影響は生じない計画である。

(質疑)

建設費について、前回評価時に事業着手時から3倍近くなっているが、その理由は何か。

(回答)

当初は、上流側の放水路のみを予定しており、下流側の分水路は計画をしていなかった。その後詳細な調査を行ったところ、上流の放水路整備のみでは、下流側の市街地があふれてしまう結果となり、分水路の整備が必要となったため、事業費が増加した。

(質疑)

スライド8枚目に、「構造や工法の決定を目的とした、詳細な測量や設計を実施中」とあるが、まだ予算は固まっていないということか。

(回答)

事業費は、現段階で算出したものであり、現在、より詳細な地質調査や設計を進めている。その結果によってはさらに事業費が増加することもあり、現在実施している調査設計の中で固めていきたいと考えている。

(質疑)

用地確保もこれからか。

(回答)

そのとおり。

【都市計画道路整備事業 都市計画道路上野西法寺線 高善寺（一戸町）】

(質疑)

代替案で一戸町のマスタープランを引用していただいております重要な路線であると分かるが、市街地から主に役場方面、総合運動公園等に向かうルートとして多くの人に使われているということか。

(回答)

国道4号側に市街地や病院などがあり、IGRを挟んで西側には役場や公共施設がある。それらを結ぶ路線ということで重要な位置付けとなっている。

(質疑)

徒歩での通行についても考慮しているのか。

(回答)

車道の整備だけではなく、歩道も両側に整備する計画としており、歩行者の安全も確保する計画としている。

(質疑)

避難にも使える安全な道路か。

(回答)

IGR自体がかなり高いところにあり、今回整備する道路も約1.5mかさ上げをした上でIGR側へ向かっていく計画としている。周りの地盤よりも高いため、浸水の恐れはかなり軽減された計画となっている。

(質疑)

信号はどこにつけるのか。

(回答)

現在整備している区間については、交差する主要な道路がないため、信号を設置する予定はない。

(質疑)

踏切築造工事に係る分岐器の移設内容変更によって 778 百万円増額しているが、このくらい費用がかかるものなのか。

(回答)

踏切は、形状や設備によって費用が変わり、今回よりもさらに高額となるものもある。本事業は、踏切自体が広くなることや機器を多く移設する必要があるため、費用が高くなっている。

イ 第 3 回専門委員会（現地調査）について

行程案のとおり、「都市計画道路整備事業 都市計画道路上野西法寺線 高善寺（一戸町）」を現地調査することと決定した。

(2) 会議資料

資料 No. 1 令和 8 年度第 2 回岩手県公共事業評価専門委員会詳細審議対象地区 位置図

資料 No. 2 公共事業再評価詳細審議資料

資料 No. 3 令和 8 年度第 3 回岩手県公共事業評価専門委員会 現地調査行程（案）

参考資料 令和 8 年度第 1 回岩手県公共事業評価専門委員会の審議概要

※ 会議資料及び会議録については、行政情報センターへ配架するとともに、県のホームページに掲載します。

6 傍聴人数

一般 0 人 報道 0 社

7 問い合わせ先

〒020-8570 盛岡市内丸 10 番 1 号

岩手県政策企画部政策企画課 TEL：019-629-5181 FAX：019-629-6229

8 アドレス

<https://www.pref.iwate.jp/kensei/seisaku/hyouka/koukyouhyouka/1099262/1099268.html>

9 その他

政策等の評価について御意見がありましたら、上記問い合わせ先まで FAX 等でお寄せください。今後の専門委員会での審議の参考とさせていただきます。